

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/3 1	50665	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥弱毒性麻疹ワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒性風疹ワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリブシン	ブタ臓臓	カナダ、アメリカ	製造工程	有	無	無	コロナウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 2005;11(3):446-8	2003年春にSARSの大流行が起こった中国においてブタから分離されたSARS関連コロナウイルス(SARS-Cov)の塩基配列、疫学解析を行った結果、直接的な証拠はないが、ヒトを起源とするSARS-Covのブタへのウイルス伝播が示唆された。
2005/10/3 1	50666	財団法人 化学及血清療法研究所	ボルヒール 乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 人血清アルブミン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	有効成分添加物	有	有	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアングラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45 (4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年5月、CDCによると、米国でリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。
											リケッチア症	第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国においては極東アジアでの初確認例である。
											HIV感染、C型肝炎	CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週間後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエント

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/31	50667	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子乾燥濃縮人活性化プロテインCトロンビン	トロンビン	ヒト血液	日本	有効成分製造工程	有	有	無	ウエストナイルウイルス ロタウイルス陽性 マールブルグ病 ウイルス感染 リンパ性脈絡髄膜炎 リケッチア症 HIV感染、C型肝炎	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9 第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23) CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 Transfusion.2005;45(4): 500-3 CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3) CBER Guidance for Industry July 2005	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。 トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。 2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。 米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。 2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。 2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/31	50668	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XⅢ因子	アプロチニン液	ウシ肺臓	ウルグアイ	有効成分	有	有	無	ウエストナイルウイルス 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9 USDA News Release No.0232.05	2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。 米国農務省(USDA)は6月、昨年11月に食品としての供給を阻止された牛のサンプルについて英国ウェイブリッジ獣医試験所からの最終報告がBSE陽性であったと発表。これを受けて、7月BSE検査結果と新しいBSEの確証的な検査プロトコルを公表した。これによると、BSE迅速スクリーニングが不確実な結果の場合、IHCとウェスタンブロット法確認試験の両方を実施しこれらいずれかの結果が陽性であるならば、サンプルは陽性をみなされることとなる。今回の公表内容は即日発効。
2005/10/31	50669	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XⅢ因子	人血液凝固第XⅢ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	有	無	ロタウイルス陽性 マールブルグ病 ウイルス感染 リンパ性脈絡髄膜炎 リケッチア症	第52回日本ウイルス学会学術集会(2004/11/21-23) CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 Transfusion.2005;45(4):500-3 CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。 2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。 米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。 2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外には知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否かを精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国においては極東アジアでの初確認例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/31	50670	財団法人 化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV感染、C型肝炎 ウエストナイルウイルス ロタウイルス陽性 マールブルグ病 ウイルス感染 リンパ性脈絡髄膜炎 リケッチア症	CBER Guidance for Industry July 2005  Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9  第52回日本ウイルス学 会学術集会 (2004/11/21-23)  CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2  Transfusion.2005;45 (4): 500-3  CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2  第57回日本衛生動物 学会大会(2005年6/1-3)	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリー  2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。  トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。  2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。  米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。  2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒトヒト感染は、母子の垂直感染以外には知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシipientにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。  2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否かが精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては種東アジアでの初確認例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/1	50671	日本赤十字社	洗浄人赤血球浮遊液	洗浄人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV感染、C型肝炎 HIV HIV感染、C型肝炎 細菌感染 エルシニア感染 マラリア マラリア マラリア マラリア	CBER Guidance for Industry July 2005  Emerging Infection Diseases 2005;11(10):1648-9  IASR(共同通信2004年 12月3日)  FDA Available form 2005 Jul 27  The Lancet 2005;365(9470):1596  ICUとCCU2005;9 (2):45-9  ProMed20050325- 0070(Daily Times 3月 24日)  Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1  AABB Weekly Report 2005年8月5日  AABB Weekly Report 2005年8月5日	2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイドンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリー  2003年、WNVに感染した鳥の脳の飛散物を目から曝露したヒトが7日目にWNVに感染した報告。新たな感染経路に関係あるかもしれない。  2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。  2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、献血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドンス案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。  S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が供血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。  輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。  パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。  2005年4月、現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。  2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチュ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。  ドミニカ共和国アルタグラシアとトゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタ・カタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。
											パルボウイルス	Transfusion.2005;45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005;64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrP <sup>sc</sup> の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrP <sup>sc</sup> )もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrP <sup>sc</sup> )も両方の異常プリオン蛋白質(PrP <sup>sc</sup> )を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国籍は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genelal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrP <sub>c</sub> の分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrP <sub>c</sub> 発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrP <sub>c</sub> が認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050612-0040(Elideal Gallego Spain2005年6月11日)	ポルトガル初のvCJDの報告。患者は12歳の少年で、ヨーロッパ及び同盟国によるCJD共同研究グループ(EUROCJD)のvCJD可能性例の診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認された。患者に渡英歴はなし。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Medical Virology 2005;79(13):8665-8	遺伝子導入モデルにおいて評価したBSEプリオンの垂直感染について。脳内PrP(res)沈着がウエスタンブロット法において検出できる発症少し前の時期に交配させた感染母マウスのみから新生児マウスの脳のPrP(res)が沈着がみられた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9470):1596	2005年7月、アイルランド輸血サービス(IBTS)とアイルランド当局は、国内で供血者がvCJDの治療を受けていると発表。患者は初回供血者で血液は2名に輸血されている。うち1名は輸血後、まもなく原疾患で死亡している。もう1名には情報が伝えられた。同国内で発症したvCJDは2例目となる。1例目の患者はすでに亡くなっている。供血歴、輸血歴はない。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2005年7月8日	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。結果は8月末、
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Veterinary Record 2005 8月13日	実験群におけるヒツジ間でBSEの自然感染が起こったという予備的な証拠。TSEに感染していない群 (Genotype Prp ARQ/ARQ)の6ヶ月齢の雌羊30匹に感染したウシの脳5gを経口投与した。30匹のうち24匹が死亡。平均797日。2003年産まれた子羊のうち2匹はBSEで死亡。非投与群では2005年6月現在でも臨床症状は見られていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダHema-Quebecは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発行。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更予定。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる予定。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は以前不適格である。
											リンパ性脈絡髄膜炎	AABB Weekly Report 2005年5月27日	2005年5月23日、Associated Pressによると、臓器移植を受けた患者がリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)により死亡した報告。CDC死亡症例検討会の週報では、臓器移植によりLCMVが感染する可能性があることを認識すべきと指摘している。現時点では、血液を通じて感染するとの確証は得ておらず、臓器移植による感染の頻度についても確かなことはわかっていない。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	2005年1月以来、コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ウイルス感染	Transfusion.2005;45:1084-8	SENウイルスはエンペローフを持たない1本鎖DNAからなる血液感染性ウイルスである。SENウイルスの感染は輸血後肝炎の原因を解明する過程で明らかになったものの、SEN感染が肝炎の原因となるか、または併発した場合に肝疾患の悪化につながるか不明である。いずれの場合においても、SENは輸血によって感染するようである。
											ウイルス感染	ProMed20050824-0080(Reuters Health 8月22日)	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
											ウイルス感染	The American Society of Tropical Medicine and Hygiene	2003年コンゴ共和国の医療機関におけるサル痘のヒトヒト感染拡大。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。1名死亡、1名に重度の後遺症が認められた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	2005年4月、CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。米国では感染地域への渡航制限は勧告していない。アンゴラから米国に帰国後症状の無い人は特別な注意事項を守る必要はない。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):460-7	米国で、2003年7月から10月までの4ヶ月に677,603の供血者がミニプールテストによってプロスペクティブに調査した結果183人が陽性、検出率は0.027%であった。WNV感染は、個別テスト陽性でIgM陰性供血で認められ、抗体陽性で個別テスト陽性受血者では認められなかった。
											ウエストナイルウイルス	The New England J of Medicine 2005;353(5):451-9	米国赤十字の2003-4年のルーチンテストの結果、WNV-RNA陽性の540の供血者のうち362(67%)がIgM抗体が陰性で感染の可能性が最も高かった。148(27%)は個別テストでのみ検出可能で、うち15(10%)はIgM抗体陰性であった。流行期間におけるWNV-RNA陽性の供血者の52%は南カルフォルニアの4つの群の供血者からであった。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2005年8月19日	2005年7月、USDAは最初のウマのウエストナイルウイルスを予防するためのDNAワクチンを認可。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。
											A型肝炎	Transfusion.2005;45(6):1037-8	ワクチン非接種の血液ドナー2人がエジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるスクリーニング検査HAV感染が確認された。(2004年事例)このことにより、HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	2005年3月、ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。同様の例が2002年、3年にも発生している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	J of Clinical Virology 2005;33(3):254-6	ヒトの咬傷により唾液からB型肝炎ウイルスが感染したことが、遺伝子解析により確認された事例。コミュニティでのHBV感染経路の1つとして唾液の役割についてさらなる調査が求められる。
											B型肝炎	J of Medical Virology 2005;77:39-46	日本のさまざまな地域の急性B型肝炎患者145名のHBV遺伝子型を調査したところ、大都市の患者では、遺伝子型A型が多くみられた。これはおそらく特定の性行動による感染経路を反映しており、遺伝子型Cと比較して長期かつ軽度な臨床経過に関与するものである。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45:8 07-13	豪州において、輸血を受けていない患者と比較して、輸血を受けた患者のB型肝炎有病率の増加は見られなかった。HCVはスクリーニングによりほぼ完全に血液製剤から除去されているにもかかわらずHCV感染と輸血の関連性が引き続き認められている。輸血に伴う他の院内リスクがあること示唆される。
											B型肝炎	第53回日本輸血学会 総会	2004年に全国の医療機関から日本赤十字社に輸血後感染症(疑い含む)の現状とその傾向についての報告。報告総数は2004年は293例。輸血との因果関係が高いと評価した症例はHBVが20、HEVが2例であった。HBV症例には低濃度キャリアの複数回献血症例が5例含まれ、従来の遡及調査に加え、過去の感染疑い症例との照合、被疑製剤の献血者の追跡などの重要性が示唆されている。
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76(2):279-84	フランスにおいて、静脈硬化療法中に複数の患者に対して単一のバイアルを使用したことにより、C型肝炎ウイルスの院内感染が発生したと考えられる報告。輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートを考慮する必要がある。
											C型肝炎	Transfusion.2005;45(6) :994-1002	米国で、C型肝炎ウイルス感染初期における低レベルの断続的なウイルス血症は通常セロコンバージョン前に起きるウイルス量の指数増幅期および高力価プラトー期ウイルス血症の2ヶ月前に起こりえるとの報告。低レベルのウイルスが存在する血漿の輸血により、受血者がHCVに感染するかどうかを評価するための動物接種実験が進行中である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/11/1	50672	日本赤十字社	白血球除去人赤血球浮遊液	白血球除去人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	C型肝炎	J of Medical Virology 2005;76:498-502	1999年11月から2003年2月に広島9施設で定期的に追跡調査を行った2744名の血液透析患者におけるC型肝炎感染率について。新規の発現率は0.33%であった。
											C型肝炎	Gastroentelol Hepatol 2005;20(7):1087-93	日本において、外来診療所でC型肝炎ウイルスの集団感染が発生した2001年の報告。ケースコントロールで調査実施した結果この感染と有意な関連は通院歴のみであった。輸血後肝炎がほとんど完全に否定されている国でも、HCV院内感染が発生することが示唆される。
											E型肝炎	第41回日本肝臓学会 総会	献血時の試行的検査によってHEV感染が判明した献血者の遡及調査により受血者を発症前に特定し、ウイルス血症出現前から消失までの全経過を観察しえた症例経験について。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトリンパ球性ウイルス(HTLV)-IとHTLV-IIの性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。II型の性感染率はI型の場合と同様で、女性から男性への感染はこれまで考えられていたよりも重要かもしれない。ウイルスの感染性は低いので、それぞれのウイルス量は少ないかもしれない。
											HTLV	Transfusion.2005;45:1 151-9	amotosalenを用いた新たな光化学処理(PCT)により、ヒト血漿または濃厚血小板のHTLV-1およびHTLV-2が不活化されたフランスのデータ。今後の血小板や血漿の輸血における安全性を高める可能性を与えるものかもしれない。
										HIV	IASR(共同通信2004年 12月3日)	2004年12月、大阪府立衛生研究所においてPA法、ウエスタンブロット法で確認検査したところ、在日外国人のHIV-2型感染が確認された。日本でのHIV-2感染例は3例目、遺伝子学的に確認されたのは2例目。	
											HIV感染、C型肝炎	FDA Available form 2005Jul 27	2005年7月、FDAからのHIV-1及びHCVのNATの製品廃棄、供血者排除とリエントリーにかかる暫定的ガイドライン案。NATと血清学的検査を組み合わせたHIV-1とHCV用の新しいエントリーアルゴリズムを提案している。
											細菌感染	The Lancet 2005;365(9470):1596	S字結腸癌に合併するStreptococcus bovis菌血症が献血時の細菌培養検査で発見され、良好な臨床転帰を得た事例。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											エルシニア感染	ICUとCCU2005:9 (2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡したことが疑われる症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005:88(3):200-1	2005年4月、現在のドナー選択がドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナ人による輸血マラリア感染伝播について。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
											マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	ドミニカ共和国アルタグラシアとドゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告の解除について。
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルサンタ・カタリナ州保健局によると、2005年3月、ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生したと発表。ブラジル当局は供血規制を行った。
											パルボウイルス	Transfusion.2005:45(6):1011-9	ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルスB19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性のLC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19を添加し乾燥過熱処理(100℃)工程におけるB19の不活化効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理におけるB19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分含量が低い方が熱に対して安定と思われる。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005:64(5):905-7	孤発性CJDが死因と思われたがプリオンタンパク質(PrP)にR208H変異があった患者について検討した結果、R208H変異がPrPscの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼすことが考えられた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるため、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-26	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。sCJD及びvCJDサンプルにおけるRCA結合性は主に、感染性プリオンの既知の特性であるProtenazeK抵抗性における差が反映されている。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	2005年3月、モロッコ当局は、モロッコで最初のvCJD患者であろうと思われる症例について発表した。この男性は国名は不明であるが定期的にヨーロッパを訪問していた様子。現在精査中。
											BSE	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により60ヶ月後に神経症状を発症したが、もう1頭は76ヶ月後も無症状であった。これにより、食物を介してヒトへのvCJD曝露の危険性が示唆された。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genelal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。結果、末梢血単核細胞(PBMC)のみで細胞表面にPrPc発現が認められた。また、血小板にも有意な量の細胞内PrPcが認められた。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion.2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。結果、健康成人と比較して赤血球中のPrPは神経疾患対象で有意に低値であった。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16) 2005年4月21日	2005年4月20日、オランダ当局はオランダで初めてのvCJDの可能性のある症例を発表。National-CJD Surveillance Unitが診断をレビューしている。患者は26歳女性。血液や組織ドナーのレシピエント経験なし。